解説資料

てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想について

そもそもエコツーリズムって何？

エコツーリズムとは、「地域ならではの特色」を生かした観光を、環境保全や地域振興につなげる持続可能な仕組みのこと。

「地域ならではの特色」には、その土地ならではの自然環境や、歴史文化などが挙げられます。旅行者が、自然の成り立ちや歴史、伝承されてきた文化などを体験しながら学ぶ「エコツアー」に参加することで、その地域の資源を尊重し、守っていくことにつながる「環境と経済の好循環」が期待されます。

エコツーリズムの実現のためには、一部の観光事業者だけではなく、地元住民や地域のさまざまな産業を取り込み、地域一丸となって推進していく必要があります。

推進のために大切なのは、「環境」＋「観光」＋「地域」

「エコツアー」って一体何のこと？

エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーのこと。

「自然体験型」のツアーばかりがエコツアーと思われがちですが、エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーをすべて「エコツアー」と言います。例えば…

- 国立公園やその周辺でのトレッキングツアーやキャンプツアー
- 野鳥や星空の観察会
- 外来種の駆除ボランティア
- 歴史や文化を知るための学習
- 畑での農作業体験

など、全国にはさまざまなエコツアーがあります。

弟子屈町にも既にカヌーやトレッキング、星空観察など地域資源を生かしたいろいろなエコツアーがありますね。

さらに、全体構想って何？

「エコツーリズムを推進するために定める地域の指針」を指します。指針を作り国の認定を受けると、「全体構想認定地域」になります。

エコツーリズムに関係する機関を組織し、その地域として全体構想を策定すると、国（環境省）の認定を受けることができます。弟子屈町でも、てしかがえこまち推進協議会・エコツーリズム推進部会を中心に、地域として目指す方向や運用の方針について検討を重ねた結果、全体構想をとりまとめました。2016年11月に環境省より正式に認定を受け、全国で８番目（北海道では初めて）の認定地域になりました。

関係者が共通の認識に基づき、エコツーリズムを推進するために策定するのが「全体構想」です。

全体構想を策定すると…

弟子屈の自然資源をどのように保全し、活用していくのか、考えるための体制が整った！

国から全体構想が認定されることにより、以下のようなメリットがあります。

- 地域資源の独自の保護ができるようになります（特定観光資源の指定）
- 場合によっては、立ち入り制限を行うことも可能になります
- 国などのPRにより、地域のブランド力が向上します
- エコツアーに係る運送法の規制緩和が受けられます

弟子屈町の自然を守ることが出来る体制が出来て、地域のブランド力も向上するんですね。

「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」には、たとえばこんなことが書かれています

弟子屈町の自然観光資源とは何か、をきちんと定義しています。

自然景観、動物、植物、魚類、地形・地質、伝統文化、史跡、施設など多岐にわたり、ひとつひとつの項目を細かく記載しています。

エコツアーで守るべき基本的なルールを定めています。

ツアー実施事業者や、参加する旅行者が守るべきルールを定めています。たとえば、「不必要な動植物の採取や昆虫類の捕獲などを行わない」「ツアー実施者は安全管理につとめる」など。これらのルールは随時見直しを行うことが出来るとされ、状況に応じて条例制定などにつなげていくことも可能です。

自然環境のモニタリングを行うことが定められています。

自然環境の変化やその兆候をつかむため、モニタリングを行うことになっています。対象は登山道や川などのほか、動物、植物、魚類、気象など項目は多岐にわたり、各々の調査方法・頻度も定められています。

誰が主体で運用を担っていくの？

「てしかがえこまち推進協議会」が主体となり取り組みます。協議会の中に運営委員会を設置し、３チームに分かれて活動します。

協議会内「エコツーリズム推進部会」の中に、「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想運営委員会」を設置します。（※構成団体等は別紙参照）

運営委員会は、下記の３チームに分かれて具体的な取り組みを進めます。

① **環境チーム**…ルールに関すること、モニタリング、エコツアー　などが担当業務
② **教育チーム**…環境教育に関すること、人材育成　などが担当業務
③ **広報チーム**…エコツーリズムについての理解促進、ルールの浸透　などが担当業務

始まったばかりの取り組みですが、試行錯誤しながら、弟子屈町の大切な資源を守り、後世に伝えていきましょう。